様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 １５ 日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2012～2015
課題番号：２４３３０１９１

研究課題名（和文）子育て困難期における夫婦ｃｏｐａｒｅｎｔｉｎｇシステムの解明

研究課題名（英文）Mother's coparental regulation behavior to father in the challenging time of child rearing

研究代表者
加藤　道代（KATO, Michiyo）

東北大学・教育学研究科（研究院）・教授

研究者番号：６０３１２５２６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　10,800,000円

研究成果の概要（和文）：乳幼児期から青年期後期の子どもをもつ夫婦の子育てを検討するために「母親が父親の子育て関与に対して行う調整行動」に注目した夫婦ペアレンティング調整尺度を開発した。子育て各時期における夫婦ペアレンティング相互作用を検討すると，母親の認知する父親関与と父親の認知する自身の関与は，母親から父親への“促進”によって媒介されていた。また，母親が子どもの外在化を高いと認知するほど，母親から父親への“批判”は高まるが，母親の“批判”が父親の認知する関与に与える影響は有意ではなかった。母親が父親の子育て関与に対してサポーティブであると父親の関与は高いが，批判は必ずしも父親関与を高めるわけではないと示唆された。

研究成果の概要（英文）：We developed the inventory to assess the regulatory behavior of mothers in involving fathers with child rearing. The resulting Coparental Regulation Inventory with two subscales labeled “encouragement” and “criticism” had high construct validity, internal consistency and test-retest reliability. Using the inventory, we found the interactive coparenting between father and mother in different stages of child rearing as follows; the relationship between mothers’perceptions of fathers’involvement and fathers’ involvement in fathers’response was mediated by mothers’encouragement to fathers. Moreover, children’s externalizing behaviors had a positive effect on mothers’criticism, although there was no significant relationship between mothers’criticism and fathers’involvement in fathers’response. These findings suggest that mothers’encouragement has a supportive effect on harmonious coparenting; however, mothers’ criticism does not necessarily activate fathers’involvement.

研究分野：発達心理学

キーワード：子育て　夫婦　coparenting　父親の子育て関与　親発達　夫婦ペアレンティング調整

１．研究開始当初の背景

（１）子育て研究において,「母子＋父子＋父母（夫婦）」という,サブシステムの統合としての家族システム全体を包含した視点が必要である。

（２）母親や父親要因が自身の育児行動に与える影響は検討されてきたが,母親要因が父親の育児行動に与える影響を検討する必要がある。

（３）子どもの出生から自立(巣立ち)まで子育てを生涯的にみると,各時期に親はどのように“夫婦としてともに”子育てにあたっているのか（coparenting）はまだ明らかではない。

２．研究の目的

生涯発達と夫婦や家族成員の相互影響性の視点を踏まえ,乳幼児期から青年期後期を含む広汎な子育て期の夫婦における coparenting の様相を明らかにするために,研究１では,日本版夫婦ペアレンティング調整尺度を開発し,信頼性,妥当性を検証する。研究２では,子どもの問題行動,母親の認知する父親の子育て関与が,母親による夫婦ペアレンティング（促進,批判）を介して,父親自身の認知する父親の子育て関与に影響を与えるモデルの検討を通して,家族システムにおける夫婦 coparenting の影響関係を明らかにする。

３．研究方法

研究１

Shoppe-Sullivan(2008)による Parental Regulation Inventory (PRI)短縮版をもとに,異なる年代の子育て時期にある日本人夫婦に使用できるように翻訳修正した。末子が 0～21 歳の子どもをもつ母親（N=500）と父親（N=500）を対象にオンライン調査を行った。

研究２

夫婦ペアを対象としたオンライン調査を行った。子ども年齢の偏りを防ぐために,第一子年齢 4 群（2,3 歳,7,8 歳,13,14 歳,16,17 歳）について均等割付を行った。回収データクリーニング後,2,3 歳 583 組,7,8 歳 585 組,13,14 歳 579 組,16,17 歳 581 組の計 2328 組の夫婦回答が得られた。子どもの外在化問題行動は,SDQ2－4 歳用と 4－17 歳用の保護者版を用い,行為,多動・不注意,情緒,仲間関係,向社会性の 5 下位尺度のうち,行為と多動・不注意の計 10 項目の合算値から算出される外在化得点を指標とした。夫婦ペアレンティング調整尺度（促進,批判）は母親回答,父親の関与は“夫は（あなたは）日常生活の中で,お子さんとどの程度かかわっていますか”の 1 項目で尋ね,父親回答と母親回答を得た。

４．研究成果

研究１

父母別々に行われた因子分析により 2 因子が抽出され,「促進」および「批判」と命名された。「促進」9 項目は,母親,父親ともに,父親が子育てにかかわることに対して母親が尊重,支持,激励する行動を表す項目群である（例：夫（あなた）に相手をしてもらっていることで,子どもがとても喜んでいると夫（あなた）に伝える他）。「批判」7 項目は,父親が子どもにかかわることに対して母親が拒否,非難,批判する行動を表す項目群である（例：子どもに対する夫（あなた）のかかわりで気にいらない行動を他の人に話す他）。高得点であるほど母親から父親への促進行動および批判行動の頻度が多いことを示す。得られた尺度は,内的一貫性の高さと再検査法の安定性により十分な信頼性が確認された。構成概念妥当性は,育児における協働感（parenting alliance）,結婚満足度,父親

の育児関与との相関により確認され,夫婦ペアレンティング（coparenting）に対する母親の行動を評定する尺度として妥当であることが示された。

さらに,子どもの成長発達を受けて,母親による父親への調整行動はどのように変化するのかについて第一子年齢群により比較を行った。その結果,母親回答では,乳幼児期や児童期に比べて,思春期や青年期における促進行動は有意に少なかった。また,乳幼児期に比べて青年期では批判行動も少ないが,父親回答では乳児期における母親からの促進行動は他の時期に比べて最も多く,批判行動は時期による有意な差を認めなかった。

Table1 夫婦ペアレンティング調整行動と変数間の相関

	母親から父親への行動についての母親回答		母親から父親への行動について、父親自身はどうとらえているか（父親回答）	
	母親 (n = 500)		父親 (n = 500)	
尺度	促進	批判	促進	批判
父親関与	.55 ***	-.10 *	.35 ***	-.14 ***
育児協働感	.67 ***	-.30 ***	.63 ***	-.41 ***
夫婦満足感	.54 ***	-.31 ***	.56 ***	-.38 ***

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

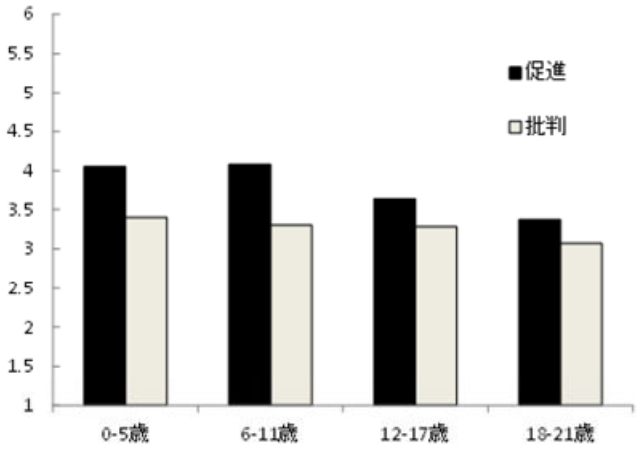


Figure 1. 母親の促進と批判行動（母親回答）

促進 0–5歳 ＞ 12–17歳, 0–5歳＞18–21歳, 6–11歳＞12–17歳, 6–11歳＞18–21歳
批判 0–5歳＞18–21歳

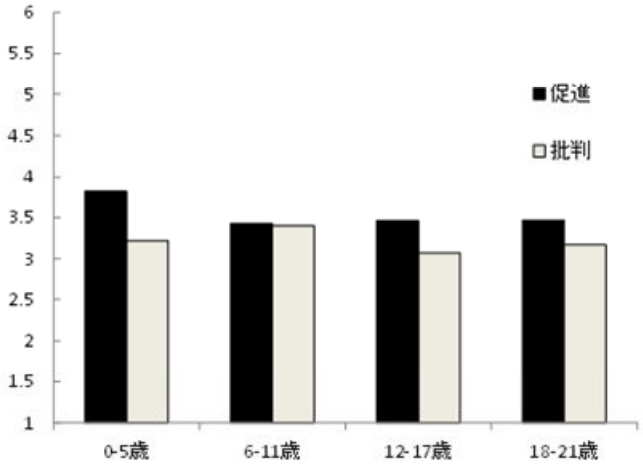
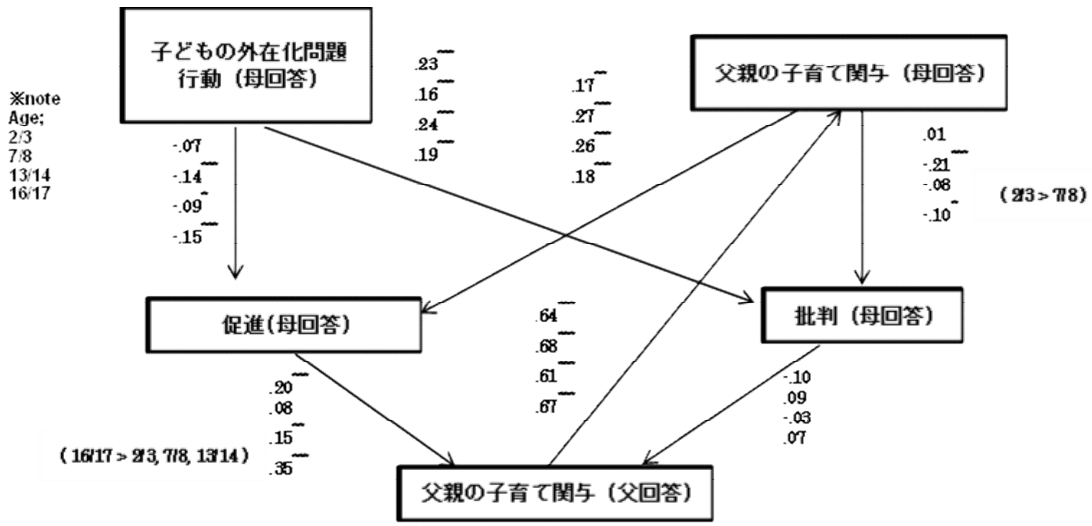


Figure 2. 母親の促進と批判行動（父親回答）

促進 0−5歳 ＞ 6−11歳, 0−5歳＞12−17歳, 0−5歳＞18−21歳.
批判 *n.s.*

研究２

子どもの外在化問題行動（母親回答）および父親の養育関与（母親回答）が,夫婦ペアレンティング調整としての促進（母親回答）および批判（母親回答）を媒介として,父親の養育関与（父親回答）へつながる仮説モデルをもとに共分散構造分析を行った。その結果,母親が父親の関与が高いと感じるほど促進は高く,促進が高いほど父親自身の回答する関与の度合いも高いこと,さらに,子どもの外在化問題行動が高いほど母親から父親への批判は高いが,母親の批判と父親回答の養育関与には有意な関係がみられないことが明らかとなった。



GFI=.990, AGFI=.981, CFI=.986, χ^2(32)=59.068 p=.002, AIC=115.068, RMR=.029, RMSEA=.019

※内生変数の誤差変数は省略。数値は標準化推定値を年齢群ごとに示した。

Fig.4 子どもの外在化行動、母親の夫婦ペアレンティング調整および父親の子育て関与の多母集団同時分析

子育てを行う夫婦間の相互性について,研究１と２では,特に,母親から父親に向けた夫婦ペアレンティング調整行動に着目して検討を行った。母親は父親に対して,支持・尊重・激励を中心とした“促進”,および,拒否・否定・非難を中心とした“批判”を行っており,“促進”は父親の子ども関与や育児協働感および夫婦関係満足の高さと関連し,“批判”の高さは,子育ての協働感や夫婦満足感の低さと関連していた。また,母親が子どもの外在化（攻撃性・多動等）が高いと認知するほど,母親から父親の“批判”が高まるが,「母親の“批判”は,父親自身の関与行動に有意な影響を与えていないことも明らかとなった。以上から,母親から父親への“促進”を通じて,夫婦は相互にサポーティブな夫婦ペアレンティング関係を形成し得るが,子どもへの対応困難から母親が父親に“批判”を向けても,必ずしも父親の子育て関与に有効ではないことがわかる。子育てのリスク場面に際し,母親の批判的行動から,より解決力の高い促進的調整行動への修正転換が生じる要因の究明は,調和的な夫婦ペアレンティングに向けた今後の重要な課題である。なお本研究は,子育て期全体を横断的に概観しており,子育て期の差異の解釈には限界がある。特に,より低年齢の親世代とより高年齢の親世代には,父親による子育て関与を促進する社会的変化を背景とした世代差が影響する可能性は考慮しておきたい。

５．主な発表論文等
（研究代表者,研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計９件）

① 加藤道代・黒澤泰・神谷哲司(2014). 夫婦ペアレンティング調整尺度作成と子育て時期による変化の横断的検討. 心理学研究, 84(6), 566‐575　(査読有)

② 加藤道代・黒澤泰・神谷哲司(2014). 幼児期から青年期の子どもをもつ親の養育態度の検討.　小児保健研究, 73(5), 672-679.　(査読有)

③ 加藤道代・黒澤泰・神谷哲司(2014). Coparenting―子育て研究のもうひとつの枠組み―　東北大学大学院教育学研究科年報, 63(1),83-101.　(査読無)

④ 加藤道代・神谷哲司(印刷中, 2016 予定). 夫婦ペアデータによる親としての発達意識の検討　東北大学大学院教育学研究科研究年報,64(2),(査読無)　　他 5 件

〔学会発表〕（計 18 件）

① Kato, M., Kurosawa, T., Kamiya, T. (2013). Reliability and validity of parental regulation inventory. European Conference on Developmental Psychology, Lausanne, Swiss.

② 加藤道代・黒澤泰・神谷哲司(2013). 母親による夫婦ペアレンティング調整が育児協働感および夫婦関係満足感に与える影響. 日本心理学会第 77 回大会, 北海道医療大学.

③ Kato, M., Kurosawa, T., Kamiya, T. (2014). Relationship between the mother’s coparental　regulation behavior and the father involvement in the context of marital quality. International Society for the Study of Behavioral Development, Shanhai, China.

④ 加藤道代(2015).夫婦がともに子どもを育てるということ―夫婦ペアレンティング研究をめぐって―. シンポジウム話題提供, 日本発達心理学会第 26 回関連団体企画シンポジウム, 夫婦がともに子どもを育てるということ―夫婦ペアレンティング研究をめぐって―, 東京大学本郷キャンパス,東京.

⑤ Kato, M., Kamiya, T., Kurosawa, T. (2015).　Parental Development to Fathers and Mothers with Children from Early

Infancy to Adolescence. Poster presentation at 17th European Conference on Developmental Psychology (ECDP), Braga, Portugal. （9/10）

⑥ Kato, M., Kamiya, T., Kurosawa, T. (2016, 予定). The effects of children's externalizing behaviors and mothers' perceptions of fathers' parenting on mothers' coparenting quality and fathers' self-reported involvement. Poster presentation at 31st International Congress of Psychology (ICP), Yokohama, Japan. 他 12 件

〔図書〕（計５件）

① 神谷哲司(2015). 親としての発達. 柏木惠子・平木典子(編). 日本の親子. 金子書房. pp.107-126.

② 加藤道代・神谷哲司(2016,印刷中). 夫婦によるコペアレンティングとは何か. 家族心理学会年報.

③ 加藤道代(2016)コペアレンティング. 宇都宮博・神谷哲司 (編著).夫と妻の生涯発達心理学. 福村出版. pp.185-189.

④ 黒澤泰(2016). 夫婦による関係焦点型コーピング. 宇都宮博・神谷哲司(編著). 『夫と妻の生涯発達心理学』福村出版. pp.190-193.

⑤ 神谷哲司(2016). 乳幼児期から児童期にかけての子どもの成長と夫婦関係. 宇都宮博・神谷哲司(編著). 『夫と妻の生涯発達心理学』福村出版. pp.146-157.

〔産業財産権〕
○出願状況（計　０件）

○取得状況（計　０件）

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
加藤　道代（KATO, Michiyo）
（東北大学大学院教育学研究科　教授）
研究者番号：60312526

(2)研究分担者

神谷　哲司 (KAMIYA, Tetsuji)
（東北大学大学院教育学研究科　准教授）
研究者番号：60352548

黒澤　泰（KUROSAWA, Tai）
（茨城キリスト教大学生活科学部 助教）
研究者番号：00723694